

静岡放送

活動名	静岡放送 読み聞かせ事業
実施期間	令和6年5月～令和7年1月
実施回数	会場 7回

【事業実施の成果・課題】

◎目標の全10回開催には届かなかったが、昨年度を上回る7回の活動が実施できた。

◎「方言で作った紙芝居の読み聞かせ」「方言に関する講演」と、これまでになかった形での読み聞かせ活動ができた。

・静岡市最北の井川地区での、方言紙芝居制作のテレビリポートは、8月末の台風で現地に行けず、放送が、予定より1回減ってしまった。

・放送部への指導は、昨年度と同じ東海大静岡翔洋中高1校に留まった。公立高校にも声を掛けたが、顧問との対面では、良い感触を得たものの、その後の連絡が不調で実現しなかった。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<第1回 呉服町こどもゼミな～る 重長智子アナウンサー>

一回5人という人数だったので、1人ずつ顔の表情や声の大きさなど見られて対応することができました。ラジオのパーソナリティ体験は、子どもたちに学校での楽しみ、家族の話、好きなスポーツなど、好きな項目を選択してもらい、話す内容を考えてもらいました。低学年のお子さんにはアドバイスをしながら進め、発表時はマイクの前で元気に話すことができました。教える側としても、原稿読みだけでなく、普段子どもたちが考えていることや感じていることを知ることができ、充実した時間を過ごすことができました。

<第1回 呉服町こどもゼミな～る 井手春希アナウンサー>

腹式呼吸や発声練習を経て、見る見るうちにお腹から声が出るようになって、自然と子どもたちの積極性も高まった気がします。ラジオパーソナリティ体験は、難易度が高いかと思いましたが、マイクを前に堂々とフリートークを披露してくれました。講座の最後には「音読の宿題でもやってみる」「ラジオって楽しいね」と話してくれて、今後の生活や夢に何かお役に立てたらいいなと清々しい気持ちになりました。

<第2回 絵本読み聞かせ 重長智子アナウンサー>

読み聞かせが始まると、赤ちゃんもニコニコ、お母さんたちも優しい表情でいつも聞いてくれます。1-3歳のおさんは、絵本の目の前に来て反応してくれて、こちらも楽しい時間を過ごすことができました。途中からはお父さんの参加もあり、赤ちゃんに読み聞かせをする姿は微笑ましかったです。

<第2回 絵本読み聞かせ 井手春希アナウンサー>

体を動かしながら楽しめる絵本や、絵を見て楽しむ本など特性ごとに、子どもたちが興味を示す様子がおもしろかった。私は今回初めて親御さんに読み聞かせのアドバイスをさせていただき、ナレーションで活用する「キャラクターになりきること」をお伝えしました。

<第3回 方言での紙芝居読み聞かせ 作者：谷ロジョイ教授>

こども園でも、地域の赤ちゃんを招いて、読み聞かせができ、存続危機の井川方言のネイティブスピーカーに育ってくれる期待しかない。

<第4回 方言がテーマの講演 静岡ユネスコ協会>

面白く聴講したが、難しいところもあった。浜松など、県内他地区のユネスコ協会でも開催を検討したい。

<第5回 こども気象キャスター 堀葵衣アナウンサー>

児童は緊張しながらもテレビの世界にワクワクしながら話を聞いてくれました。「天気を伝えたい相手を、想像しながら読んでみて」と声を掛けると、読み方がぐっとゆっくり優しくなったことが印象的でした。

<第5回 こども気象キャスター 井手春希アナウンサー>

練習を通して大きくてハキハキとした声が出せるまでに成長。「話す」ではなく「伝える」ことを大切にしてほしいと話しました。カメラを前にすると緊張した面持ちでしたが、一生懸命「伝える」ことを意識して取り組んでくれてとても嬉しく思います。

<第6回 放送部指導 野路毅彦アナウンサー>

昨年度行った発声練習方法が身に着いて、短い時間で、腹式呼吸によって息を吸うことができている。このことがコンクールでの上位成績にも繋がっている。

<第7回 テレビであそぼう 高田愛弓アナウンサー>

1月25日土曜日は各回4人と少人数だったため、一人ひとりにじっくりと向き合って指導することができました。参加者の満足度はかなり高かったのではないかと思います。翌26日日曜日は2回とも参加者が定員ちょうどくらいでした。

参加者が多かった分、盛り上がりましたが、体験スペースが狭く少し窮屈な印象でした。年齢層は想定より低く、カタカナをまだ読むことができない子もいたので、それぞれの年齢に合わせて対応する必要があった点が一番難しかった。

<第7回 テレビであそぼう 大久保友恵 事業担当の感想>

厳しくなる一方のテレビ業界で、子どもたちがアナウンサーの仕事に興味を持って、一生懸命原稿を読んでいる姿をみて、とても嬉しく感じました。商業施設のイベント広場での開催だったため、買い物帰りにふらっと立ち寄ってくれる親子連れから、将来アナウンサーを目指す小学高校学年まで多くの子どもたちで賑わいました。アナウンサーがお手本の早口言葉を披露すると、子どもたちからは歓声が上がりました。静岡放送アナウンサーが、一人一人のお子さんと目を合わせながら原稿読みの指導をし、それぞれの良かった点や「もっとこうしたほうが良くなる」というアドバイスを伝えてくれました。

課題は、会場の広さの関係上、各回10人限定の体験となってしまったことです。もっとたくさん子どもたちに体験してもらえたら嬉しいなと思いました。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<第1回 呉服町ゼミな〜る 40代女性・9歳と7歳の女の子>

子どもが自分で考えて話す機会や文章を書くことが苦手としていたので、今回みんなで発言したり、自ら考えて行動したりできてよかった。本当のアナウンサーの原稿やニュースを読めて嬉しそうでした。アナウンサー本人とも話せ、モチベーションが上がったと思います。

<第2回 絵本読み聞かせ 39歳女性 子ども2歳と1歳>

大きな絵本をゆっくり読んでくれてとてもよかった。

<第2回 絵本読み聞かせ 31歳女性 子ども1歳7か月>

アナウンサーの方に絵本を読んでいただいて貴重な時間でした。子どもが好きなだるまさんシリーズもあり、とても楽しそうでした。

<第2回 絵本読み聞かせ 36歳女性 子ども11ヶ月>

家族以外の読み聞かせを聞く機会がなかったのでよかった。

<第2回 絵本読み聞かせ 40歳女性 子ども2ヶ月>

絵本の読み方やオススメの本などとても参考になりました。また参加したいです。

<第2回 絵本読み聞かせ 35歳女性 子どもの年齢記載なし>

家には大きな絵本で読み聞かせを聞くことができ、刺激になったと思う。

<第2回 絵本読み聞かせ 38歳女性 子ども8ヶ月>

話しかけながら読んでくれて楽しかった。また来ます！

<第2回 絵本読み聞かせ 33歳女性 子ども1歳8ヶ月>

素敵な声で癒されました。

<第2回 絵本読み聞かせ 26歳 子ども6ヶ月>

重長アナとお話をして、絵本の読み聞かせで大事にされていることに共感できてよかった。またタイミングを合わせて参加させていただきたいです。

<第2回 絵本読み聞かせ 子育て支援センター「よしよし」代表・末吉喜恵代表>

アナウンサーの皆さんの読み聞かせは、私たち保育士にもとても参考になります。絵本を開けた時の雰囲気作りや子どもとのやりとり、子ども目線になっているところなど、とても素晴らしいと感じました。

<第3回 方言紙芝居読み聞かせ 小学3年男子の感想>

地元の言葉だけれど、昔は使っていた方言になじみがなく、意味を取り違えてしまった。

<第3回 方言紙芝居読み聞かせ 小学2年女子の感想>

「手を挟む」ことを、わざと方言で「手をばさむ」と、尝试してみることがある。

<第6回 放送部指導 高校2年女子(部長)の感想>

読みでは自分の苦手な音を見抜かれてびっくりしました。また、野路さんの読みを聞いて、1単語1単語スって入ってくる感覚がわかる気がしました。影島アナウンサーには、緊張のほぐし方について質問させて頂きました。緊張をしっかりと受け止めること。そして失敗を恐れずになんにでも挑戦していこうと思いました。

<第6回 放送部指導 高校1年女子の感想>

アナウンサーの方に朗読を聞いてもらう事が今まで1度も無かったのでとても緊張しました…。沢山アドバイスを頂いたのをまた活かせるようにしたいなと思います。朗読の解釈は人それぞれなので正解はないと思っているので自分の意見、勿論相手の解釈も大切にしたいと思います。私は集中力がなく長い

文章だと途中で息切れしてしまうので、もっと頑張りたいなと思いました。

<第7回 テレビであそぼう 参加した子どもの感想>

カメラを見ながら原稿を読むのが難しいと感じた。